恵の聖母の家　園内報

ルルドの丘

2011
10月
No.21

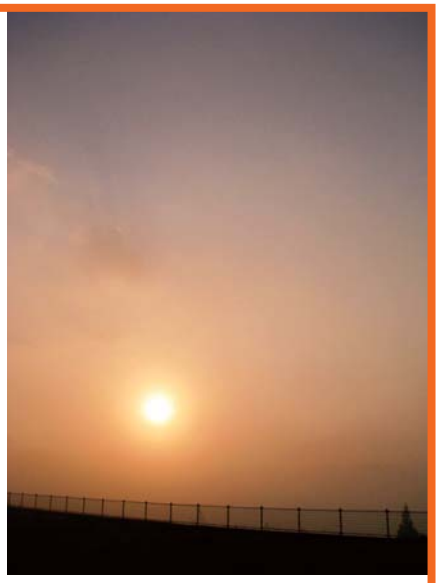
目次

みことば・きらりん …… 2
巻頭言 …… 3
ヴォイス(1) …… 4
おでかけ・できごと …… 6
ヴォイス(2) …… 8
ぽっかぽか …… 10
ぴかぴかぴか・感謝 …… 11
行事予定・編集後記 …… 12

社会福祉法人　聖母の騎士会
恵　の　聖　母　の　家

▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします

みことば



木々、花々、草々は　静けさのうちに
成長します。星々、太陽、月は静けさのうちに
動いています。静けさは、わたしたちに、
物事に対する新しい見方を与えてくれます。

マザー・テレサ

きらりん☆

とんとんクラブ

『とんっ！とんっ！・・・』

とんとんクラブはその名の通り、「とんとん！」といいながら自らの手を使ってちぎり絵などの制作活動を中心に月１回活動しているクラブです。メンバーは、ひかりの大地の４人の利用者の方々です。昨年から、ときめき作品展への出展を目標に活動しており、昨年は「こいのぼり」をみんなで制作し出展しました。今年はみんなで「十二支」を作ろうということになり、それぞれが３つの干支を担当し１つの作品「十二の干支」を作り上げることができました。それぞれの個性豊かな素晴らしい作品になりました。11 月中旬のときめき作品展に出展予定です。当園ではお正月にお披露目したいと思っていますので楽しみにして下さい。

とんとんクラブのメンバーの様子ですが、いつも意欲的に活動に参加されて上手に絵を描かれて、色紙を貼ること等をとても楽しそうに作業される方、この活動を通してリーダーの話をじっと聞いたり指示にあわせて作業したり、集中力が高まっているのが感じられる方、最近メンバーの名前をすらすら言えたり、「とんとん！」と作業をしながらの声かけもとても上手な方、「僕は手先が不器用ですから･･･」と言いながらも細かい指示をだし完璧をめざして作業にあたる方と様々です。

今後も、４人の個性を生かしながら１つの作品を作っていく活動を続けていけたらと思っています。

（生活福祉課　保育士　廣田　由美子）

ときめき作品展は 2011 年 11 月 17 日～21 日　アートプラザで開催予定です。

表紙写真は９月に施設外療育でお出かけした買い物の時の一場面です。

▼写真　あゆみの広場に咲いた風にそよぐコスモス

巻頭言

園長　佐藤圭右

今年は三月の東日本大震災に続き、九月には台風十二号をはじめとする相次ぐ台風で、自然災害に悩まされる年となりました。

恵の聖母の家でも、災害に対する備えはしていますが、十月には、崖崩れによる道路の崩壊を想定した防災訓練を、行政と合同で行う予定になっています。防災ヘリの出動も想定され、かなり大がかりなものになりそうです。

―・―

さて、いよいよ、来年四月から、重症児者施設の重症者が、障害法律用語は「障害」）者自立支援法の下での制度に移行しようとしています。

六月末に提示された案では、制度的には、児は児童福祉法、者（十八歳以上）は障害者自立支援法となっていますが、幸いなことに「児者一貫」という原則は守られたように思います。

児者一貫であるからこそ、三十歳になっても、四十歳になっても、少しずつでも発達が見られる重症者の療育が守られると思っています。そして、だからこそ、自分は、児童指導員や保育士といった職種を大切にしたいと思っています。今回の制度改正でも、施設基準として、療育に携わる職種は残っていくものと信じたいと思っています。

一方、重症児者通園施設も、これまでの予算事業から、障害者自立支援法に基づく法定化された事業になるようです。

こちらも、原則として、「児童」発達支援と障害「者」サービスにより対応するそうですが、実際のところ、両者を一体的に実施し、児者一貫した支援の確保を目指すことになるそうです。

ただ、通園「こだま」で、保護者の皆さんとの懇談会を開きましたが、そのとき、ある保護者の方から、「自分の子は、重症児者には該当しない。しかし、重症児者である同級生と一緒に養護学校に行き、一緒に卒業し、そして、卒業後の居場所を作ろうと、一緒に活動してきた。そのために何度も県に働きかけ、今のこだまの前身ができた。今、ここで重症児者でないからと言って、別々の障害者サービスを提供すると言われても、子どもの気持ちを考えると…。」というお気持ちを伺いました。

これは、入所者の皆さんにも、あてはまるものがあります。実は、障害程度区分というものを市町村により行ってもらい、判定を受ける必要があります。軽度の一から、重度の六まで全部で六段階あり、重症児者施設には、区分五、六に該当する人しか入れなくなるそうです。ただし、現在入所中の人が退所しなければならないことはないそうです。

年齢による区別や、障がいの軽重による区別は、本来は行う必要はないと思います。それぞれの「個性」に合わせて支援を行うのが、障がい児者施設の役割だと思います。しかし、現実的には、寝たきりの人の中に走り回る人を一緒に入所させることは安全上できない、支援により就業できる人もいれば生活重視の人もいる、中途障がいで機能を失った人と生来の障がいで機能を獲得できていない人の違い、など施設側の問題や支援方法の違いによる問題で障害による区別を行わざるを得ない面もあります。

確かに現実はそうですが、ご家族の「思い」は大切にしていきたい。そういう「思い」を活かすことができる、ゆとりある制度改正になっていただきたいと願っています。

医局

京都な日々

小児科医　長倉　智和

免疫細胞の研究のため、京都大学の研究室で三年間お世話になったことがある。研究に明け暮れる日々・・・。と書きたいところだが、せっかく京都に住んでいたので、週末に家族でお出かけをしたことを思い出しながら書き綴ってみたい。

―春の章―

日本全国、桜の名所は数あれど、京都の桜は格別に美しい。特に鴨川の土手沿いにどこまでも続く桜並木は圧巻だった。太閤のお花見として知られる「醍醐寺」の桜、枯山水で有名な「龍安寺」の庭ごしにみる桜、少し遅めに咲く「仁和寺」の桜・・・、家族でいろんな場所へお出かけした。

古寺と桜のコントラストが、なんとも表現しがたい美の情景を作り出す。平安時代の貴族、栄華を極めた藤原氏も、満開の桜を愛で、やがて静かに散ってゆく花びらに自分自身の姿を重ね合わせていたのかもしれない。

当時三歳の長女は「京都のお寺」には全く興味を示さなかったが、鮮やかな桜を見て「パパ、みて、ちれい(きれい)なお花だねぇ」と何回も繰り返していた。忙しかった研究生活の中で、日常を忘れることのできる癒しの一時であった。

仁和寺の桜

―初夏の章―

私のアパートは京都市内から少し外れにある岩倉という場所にあった。周囲を山々に囲まれ、近隣には畑や水田もあった。自然に囲まれた場所ゆえに、四季の移り変わりも分かりやすく、桜の季節が終わると、山々は新緑の季節へと姿を変えていく。自宅のリビングの窓からは、いつも表情豊かな「比叡山」を眺めることができた。(比叡山は京都府と滋賀県にまたがり、延暦寺は滋賀県。)

初夏になると、私たちを待ち受けていたのは、過酷な気候だった。「暑い!」、とにかく「暑い!」。何度この言葉を口にしたことか。三十年近く生きてきて、九州が一番暑いと信じて疑わなかったが・・・。京都の暑さは耐え難かった。「パパ、今日どっかいくの?」と三歳の娘が問いかけるが、こんなに暑くてはお出かけに行く元気もない。かと言って、クーラー付けっぱなしで家でゴロゴロするのも・・・。「そうだ! 海を見に行こう。」「でも京都って海あるの?」

家族でこんなやりとりをしていた時、頭の中にふと百人一首の歌が浮かんできたのである。

「大江山
いく野の道の　遠ければ
まだふみもみず　天の橋立」

私たち家族は一路、天橋立を目指しドライブへと出かけた。天橋立といえば、陸前松島、安芸の宮島とともに、日本三景の一つである。洛北の山々を越えて車を走らせること三時間、ようやく眼前に海が開けてきた。そして、潮風が薫る道を進んでいくと、「天橋立」という看板が目に入る。「どこ、どこ?」、松林や砂浜の海岸が眼に入るも、地上からではその美しさは知ることができない。ロープウェイで山頂に登り、ようやくその全景が見え始めた瞬間、観光客の歓声があがる。碧い空と海、入江の向こうまで続く松林と白い砂浜。自然が作り出した、そしていにしえの歌人も歌に詠んだ「天橋立」である。

「絶~景! 感~動!」 今まで見てきた景色の中で、一番印象深い光景であった。(以来、この絶景が忘れられず、三年間で四回も天橋立に足を運んだのであった。)

「わーい、わーい。あまのはちだて」振り返ると、娘は体を前にかがめ、自分の股下から絶景を眺めている。(誰から教えてもらったの?) 逆さから見ると空に向かって龍が昇るような姿に見えるらしい・・・。他の観光客も、やや恥ずかしげに、同じパフォーマンスに興じていた。しばし、時間を忘れてしまい、帰路に着いたのは、夕刻を回って周囲が暗くなってからであった。帰りの車中、日中はしゃぎ回っていた娘は、さすがに疲れたのか、チャイルドシートに深く座り、ぐっすりと眠りについていた。

「おやすみ。またお出かけしようね。」

次回予告:「夏の章」、祇園祭り、五山の送り火も登場。乞うご期待!

看護課

あれから三年

看護師　佐藤　智子

どんなにいたましい災害が起きようが、自然は立ち止まらず、少しずつ進んでいます。

忙しく毎日仕事をしていても、ふと窓から流れる風は、夏は終ったんだと思わせてくれる時があります。季節は一歩一歩進んでいるのです。

足の手術から三年が経ち、最近ようやく上手く歩くことが出来ている気がします（本当は坂は上手く歩けません。長く歩くのも苦手です）。手術に対しては、ご心配とご迷惑をおかけしました。八時間の手術後、何が大変だったかというと傷の痛みではありません。傷の痛みは、エピや薬、坐薬とありとあらゆることをするため、足が重いしか思わないのですが、何がつらいかと言うと、二十四時間仰臥位という日を何日も耐え忍ぶのが一番つらかったです。もちろん、ベッドマットはやわらかい床ずれのできないものでしたが、背中が熱い、お尻が痛い、腰が痛い、横には向けない…、そのつらさは薬ではやわらげないのです。おかげで一年以上経っても二時間おきに目がさめる癖がぬけない日々が続きました。どうしても我慢できず、一日一回、足を固定されたまま、右側を向くことが許可された時は、大変うれしかったが、看護師二人で体位をかえてくれるのですが、どうもひざの位置がしっくりいかず、つる感じがあり、三十分ももたなかったけれど、それでも背中がスーッとする感じがして、天国のようでした。

そんな生活の中で一人の看護師が私の背中をなでてくれた時は、とても気持ち良く、人のあたたかさ、安心が伝わってきました。心からありがとうと思いました。

皆さんも今一つ、体位を変える時、そのひと手間をかけてみませんか。ありがとうが聴こえてくる思いがします（もちろん、常にされていると思いますが…）。

地域福祉課

被災を思う

臨床心理士　児玉　久美子

東日本大震災から、半年がすぎました。「半年経っても、給食がだせない」被災地の学校の様子を伝える報道を見て、今も災害が続いていることを感じます。

私は、五月末に一週間、心理ケアのスタッフとして、岩手県釜石市に行きました。被害地域の学校に出向き、心の傷やストレスをセルフケアできるように支援することが目標でした。

覚悟して向かいましたが、津波にのまれた街には灯りも家も道もなく、余震も頻繁に起こる中で、必死にすごしている人たちとお会いして、傷の深さと同時に“それでも生きる”強さに心を動かされました。

同じ地域でも被害には大きな差があり、傷ついていても“泣きごとがいえない”現場でした。

唯一、私たちにできたのは「被害が少ないからつらいとは言えない」と、我慢している人たちを支えて、元気になってもらうことでした。

恵のみなさまから、心のこもったメッセージカードを書いて下さり、避難所で釜石の人たちにみていただきました。私自身もあたたかい気持ちに守ってもらえた気がしました。

子ども達は「今日の給食、ごちそうだったよ。ゆで卵があったから」と笑顔で話していました。避難所や仮設住宅で暮しながら、今も頑張っていることと思います。

震災は、ずっと続いています。ひとりずつでできることは、本当に小さなことかもしれませんが、心をよせて、折にふれ、できることを精一杯取り組んでいこうと思います。

営繕

安心カーライフ

営繕主任　藤本　明

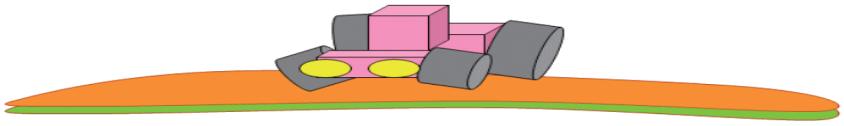
営繕車両担当からタイヤについてアドバイスしたいと思います。

タイヤは、はがき一枚だけの面積で地面と接し、高速走行している時は、一秒間に十数回も回転しています。ですから、加わる力によっては思わぬ現象を引き起こします。例えば空気圧が少ないと、高速走行時にタイヤが波を打って変形する「スタンディング・ウェーブ」や雨の高速道路ではタイヤが水に浮いてハンドルを切っても曲がらない、またブレーキも効かない「ハイドロプレーニング」も発生します。タイヤは一カ月に一度は空気圧や摩耗の点検をしましょう。

適正値はドアの内側に記載されています。長く走った後は、タイヤが発熱して空気が少し膨張するので、冷えた状態で計測した方がベストです。

また、タイヤには「スリップサイン」があり、これが見えるようになると交換時期です。そして年に一度は前と後ろのタイヤを交互に付け換えれば寿命は大幅に伸びます。

皆さん今一度、愛車のタイヤをのぞいて見て下さい。



おでかけ

5月12日　犬飼リバーパーク

雨天のため、室内レクに切り替えて皆で過ごしています。内容は Wii のテレビゲームやレクリエーションゴルフをホールを使って行いました。ゴルフでは、いつもは手に触れられることが苦手な入所者の方も嫌な様子はなく、一緒に行うことができた方、一方でクラブを持つのが苦手な方もいました。ご両親の参加があって笑顔で活動をされた方もいました。入眠傾向であった方も、最後までけいれんもなく参加でき、活動の目的の一つは自然に触れる、風に触れて一緒に過ごすこともあったので、利用者の方、そして職員も残念に感じられたようですが、次回を期待して元気に過ごしていきましょう。

5月26日　臼杵石仏

雨天のため、道の駅みえに場所を移して活動を行いました。行きの車内や現地での声かけに笑顔を返してくれる方、お姉さん夫婦の参加があって、普段よりもよく笑顔を見せて下さった方、お店の商品をみて、キョロキョロと一生懸命商品を見た方、出発の時から笑顔で、現地ではお母さんと一緒に散歩ができて満足そうにされた方と、場所は変更になりましたが、それぞれに楽しまれたようです。

6月9日　内山観音

敷地内でオリエンテーリングを行って過ごしています。現地についてうとうとされていた方もオリエンテーリングではうっすらと目を開けて起きてくれたり、竹林の所では良い風が吹いて、眼を開けてくれていました。入眠で過ごされた方もおられましたが、水辺で目をよく動かして周囲を観察していた方、表情は特にみられなくても、気持ち良さそうな声を聞かせてくれた方、車椅子を止めると声を出されて、動かして欲しい気持ちを伝えられる方と、それぞれにいつもとは違った様子をみせて下さったようです。高齢な入所者の方もゆっくりと参加できて、お店にある昔風の飴玉を見たことがあるか聞かれて、笑顔をみせてくれるなど、いろいろな楽しみ方のある活動となりました。

6月23日　内山観音

機嫌の良い声を出されて、手を叩いて楽しまれている方、たくさんの仏像をみつめて過ごされて、帰りは満足そうにされた方、ご家族の参加があったり支援者の移乗の援助で楽しまれた方もおられました。歴史や家族に触れて楽しむ活動になったようです。

6月30日　道の駅きよかわ

買い物では、ソフトクリームを味わって楽しまれる方、店内の雰囲気よりも付添い者が気にいって過ごされた方、買い物で何にするか聞かれて、ご自分で商品に目を向けられて、広いスペースのあるところでは積極的に車椅子を動かして活動的な方、暑かったのでジュースを飲んで楽しまれた方、タクシーやトラック等、眼に入るものを皆に大きな声で教えてくれるものの、買い物ではなかなか決めることが難しい様子で、なんとか桃ジュースを納得していただいた方等、個性あふれる活動になりました。

7月14日　道の駅きよかわ

ご自分で車椅子を操作して楽しまれる方、ドライブが好きで、車内の雰囲気を楽しんで、現地の買い物ではゼリーをじっとみつめて、買ったソフトクリームを嬉しそうに味わった方、お母さんと妹さんの参加に嬉しい表情をみせてくれて、一緒に過ごされる時は声かけに耳を傾けて、手を口に運ぶ様子がみられなかった方、飾ってあるかぐらのお面に関心を示される方、妹さんの参加があって、ソフトクリームやおにぎりをいただいて満足そうにされている方等、視覚や味覚、そして聴覚でも活動を楽しまれていました。

8月30日　園内レク

医師、看護師、介護職員と連携を図り、利用者の方は体調の心配がありましたが人工呼吸器を装着されている２名の方も無事参加することができました。今回はテラスに出てエコクラフトを制作しています。実施後のアンケートでは「外で風や大気を感じながら楽しいひと時が過ごせた」との感想をいただくことができました。参加していただいたご家族の皆さま、ありがとうございました。

聖母被昇天ごミサ

家族の日から・・・

できごと

5月21日　家族の日

レクリエーションを通して、家族で楽しい一日を過ごす“家族の日”が交流ホームを中心に行われました。開始にあたっては、東日本大震災で被害を受けられた方々にお祈りを捧げて、一日も早い復興を皆で願いました。
お祈りの後は利用者の方によるはじめの言葉、そして（昨年の運動会に引き続き）副園長の田中先生からは挨拶の中で「頑張るぞー」「楽しむぞー」「頑張るぞー」と気合を入れていただき、今年も明るく楽しい雰囲気で始まりました。めぐみ会会長の三浦さまからは、「気温に注意して、時間の限り楽しみましょう」とのお言葉の通り、皆、健康に気をつけながら最後まで様々なレクリエーションに参加したり、いろいろな方と触れ合って楽しまれたようです。
また、この日はたくさんのボランティアの方が来て下さり、盛大な会になりました。野津中学校、野津高校、藤華医療専門学校、別府大学短期大学部、傾聴ボランティアの皆さま、そしてご家族の皆さま、ありがとうございました。

6月12日　オーボエとピアノの演奏会

午後３時から４０分ほど、大分大学医学部附属病院の医師山口先生とその奥さまが、素敵な演奏会を開いて下さいました。オーボエとピアノのハーモニーで、クラッシックのみならず、ディズニーの曲や歌謡曲、演歌等、いろんなジャンルの曲を演奏して下さり、また合間には楽しいおしゃべりもあって、出席した利用者の方、面会に来られていた保護者の方、皆が楽しめる内容となりました。オーボエはなかなか目にしない楽器ですが、力強く、また優しい音色で、ピアノ（チェンバロ）はとても調和のあるバッハの調べを披露して下さり、皆の中にとても印象深く残ったことと思います。客席を歩みながら入所者の方に近づいての演奏等、気をつかっていただいて、とても優しく音楽に触れさせていただきました。ありがとうございました。

6月16日　理念について

６月後半に予定しているみさかえの園見学を前に、総師長からあらためて恵の聖母の家の理念のお話がありました。祈りと愛の業としてマリア様に仕えた聖マキシミリアノ・コルベ神父様が 1930 年に長崎に来られ、マリア様について教えを広められたこと、またコルベ神父様がポーランドに帰国された後は、戦後にミロハナ神父様が戦災孤児を収容するために「聖母の騎士園」という養護施設を作ったこと等、これまでの聖母の騎士会のあゆみを皆で再確認しました。隣人のために好き嫌いの感情や自分への損得の計算を超えて、営利目的でもなく、目に見えない神様に仕えるために、目に見える隣人を心から愛し仕える、具体的には私たちが毎日仕えさせていただいている利用者さんに対して、直接あるいは間接的な立場から利用者さんの立場にたって考えてケアしていくこと。マキシミリアンの園で働く私たちにとって創立者のミロハナ神父様の言葉、生き様を通してみると、日本の福祉のために宣教師として、愛と奉仕の生涯であり、私たちに向けられた理念の追究への遺言であると受け止めたいと思います。

（６−７頁は広報松山が担当しました）

キッズコーナー

８月 11 日から 17 日迄、トヨタ・カローラ臼杵店の皆さまのご厚意により店舗でお使いになっているキッズコーナーをお借りすることができました。車椅子から降りて横になって休める場所、また面会に来られた子どもたちが楽しめる場所にとお借りしました。カラフルな色はホールを明るくして、「明るい雰囲気になった」との感想もいただきました。トヨタ・カローラ臼杵店の皆さま、ありがとうございました。

8月13日　映画鑑賞会

お盆の時期に皆でゆっくりと映画鑑賞を行っています。今回はディズニーのアニメーションを皆で鑑賞しました。今年はプロジェクターも新しくなったこともあり、昨年よりもくっきりとスクリーンに映って、映画の雰囲気が楽しめたのではと思います。

8月15日　聖母被昇天ごミサ・故利用者追悼ごミサ

交流ホームで潔き聖母の家の皆様、他たくさんの方と、今年は特に震災で亡くなった方に対してお祈りを捧げました。神父様からはマリア様について、なぜ皆が慕うのか、それはイエス様のお母さんであり、またどのような人であっても忘れず、見放さない、海より深い愛で受け入れてくれるからではないかとのお話がありました。マリア様に感謝して祈っていきましょう。

8月27日　別府大学短期大学部劇団マーブル公演

今年も別府大学短期大学部劇団マーブルが恵の聖母の家に来てくれました。会場は潔き聖母の家の皆さん、デイサービスの皆さん、そして恵の聖母の家、短期入所利用の方と、たくさんの方でいっぱいになりました。
劇のプログラムは「おばけのおっくん」「にげだしたパンケーキ」で、合間には「会いたかった（AKB）」「GOGO サマー（KARA）」「GEE（少女時代）」のダンスが用意されていました。「こんにちは！」の元気な挨拶で始まった公演は、はじめに皆で元気良く歌った「幸せなら手をたたこう」では、一緒にとった手拍子が会場の一体感をよりいっそう強くしたようです。そして恒例のカウントダウンを皆で行って、マーブルのテーマソングを歌いました。ギターの音がとてもあったかくて、森でキャンプをしているような雰囲気になったように思います。また、「はじまるよ」の声かけがとても良かったですね。お別れの時はマーブルの皆さんにテーマソングで送っていただきました。あたたかいお気持ちと歌をありがとうございました。

生活福祉課

ちぎり絵を楽しむ

介護福祉士　芦刈　朝寿

今年度から入所者の方と一緒に個別対応の時間を使って「ちぎり絵」を行っています。入所者の方は、紙を破ることが好きなのと絵を描くことが好きなので、本人の楽しみを一つにして作品を作れたらと思い制作してみました。

いつも何を描くか迷いますが、対象の方とご本人用のおもちゃを見たりしながら季節にあったものを一緒に考え作成しています。

鉛筆を見せると嬉しそうに手に持って絵を描こうとされるので自由に描いてもらい、後で支援者と一緒に下絵を描きそれをもとに貼り絵をします。紙をちぎるのは、支援者が少しちぎってお渡しすると、両手でちぎって絵の上に置いていきます。

入所者の方も楽しみにしているようで「クッションチェアに座ってちぎり絵をしますよ」「座りますか」など声掛けを行うと嬉しそうに「オッ」などと答えてくれています。また始めて作った作品(ふくろう)は、『ときめき作品展』に出展予定です。

今後も個別対応や部屋の皆さんと協力して作品を作り『ときめき作品展』などにも出展出来たらと思います。

こだま

通園こだまに来て半年

こだま責任者　丸山　久幸

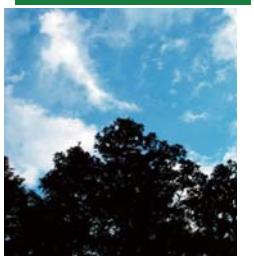
今年四月に、責任者として「通園こだま」の事業を兼任しています。利用者・ご家族の皆様へは、行き届かない事も多くあると思います。しかし、これまで、通園を支えて来られた前任の山田さんをはじめ、職員一人ひとりが利用者の方の状態やご家族からのご意見を反映しながらの運営は継続されていると感じています。皆さんのご尽力に感謝しているところです。

さて、早くも半年が経ち、各行事や催し、五月と七月のご家族との懇談会を通し、利用者・ご家族の方とも少しずつ顔見知りになれたと自負しておりますが、いかがでしょう？

「重心通園の法定化」が打ち出され、今年の七月の当園との懇談会では、通園こだま親の会の徳脇会長を中心に、県の障害福祉課統括の首藤研一様にもご臨席賜り、これまでの通園事業の経過や親の思い（こだまを利用する事で、利用者ご自身が気分転換が図られること・他者との交流の場となっていること・それにより親が安心して任せられていること・本人が安全に過ごせる所となっていること・少しずつ我が子の成長や親も子離れし成長出来ている等）をお伝えしました。今後も継続利用可能な体制を強く希望されるお気持ちをご家族一人ひとりからお聴き出来る機会にもなり、貴重な懇談会となりました。

活動の方は七月十六日の午前には、親子で夏の縁日（かき氷やゲームコーナー）を楽しんだり、臼杵市や竹田市の支援学校からの体験実習生との交流、藤華医療専門学校や野津中学校から実習生も来られ、多くの学生との交流がありました。後期は、十月十五日（土）の運動会に向けて、最近は競技の道具作りや競技練習を始めている所です。どんな運動会になるか？お楽しみに…。また、この時期は、九州や全国の事業所研修会が行われます。こだま職員も複数参加させて頂く予定です。九月二十二日に九州・鹿児島で開かれる事業所研修会では、「いろはカルタ」の活動紹介とこだまで使っている「パーソナル記録と検温表」を紹介します（＊個人の記録や情報は紹介せず、活動写真の掲示紹介については事前に保護者の了承済み）。この様に、自分達の活動を発信したり、各地の通園事業の状況や、体制が変わる中で、事業運営をどのようしていくべきか等、情報交換が行える機会として参加し、そして、こだまの親の会、在宅や支援学校の先生方との連携と通園利用をどう繋いで行くかを考えていきます。

訓練課



月日の流れや 成長を感じさせるもの

言語聴覚士　柴田　水登子

暑かった夏が終わり、季節は秋へと移り変わりつつあるこの時期、暑さに弱い私には、ほっとするのと同時に、あることをするのに最適な季節の到来だとうれしくなっているところです。それは、読書です。秋の夜長、といっても最近は早寝が身について長時間の読書ができなくなってきているのですが、それでも一日が終わり、眠りに就くまでの時間、涼しい夜風の中、虫の音を聴きながら、短いながらも本を開くのは私にとって至福の時と言っていいでしょう。

ジャンルはいろいろ。ミステリー、古典、小説、エッセイ、占い、漫画、足ツボ・ペットの飼い方・庭造り・インテリアなどの実用書、ファンタジー、新聞など面白いと思えば何でも読みます。まさに、雑食読みです。その中でこれはと思っているのが、実は絵本です。

言語聴覚士の仕事を始めた頃から、子どもさんのための訓練教材として、また子どもさんが楽しめるようにと思い、絵本を探していたことがそもそものきっかけです。子どもが喜ぶかなあとか、この目的のためにこの本を使おうかとなどと考えていたのですが、いつの間にか私自身が、かわいらしく、美しい絵に心癒されたり、短い内容に含まれる“人生哲学”に目からうろこが落ちる思いをしたりということもしばしばあり、本来の目的からそれることが多くなっていました。絵本の奥の深さにハマってしまったのです。

子どものころ読んだ本を今読み返すと、その頃には感じなかったことが大人になった今感じられたり、反対に、記憶にある子どもの頃の本に対する印象が実は違っていたり。同じ本を“子どもだった私”と“大人になった私”は読むことで月日の流れを感じたり、物の見方が変わった（成長？老化？）のだとしみじみと思いを巡らせられます。

短時間で読み上げられるので、本を読む時間がないという忙しい大人のためにもうってつけではないかなと私は思います。“いまさら絵本”と思わずに、絵本は子どものためだけのものではあらず、です。図書館、書店で自分へのプレゼントとして探してみてはいかがでしょうか。ちなみに私は、アメリカの作家アイリーン・ハースさんと林明子さんの絵本がお気に入りです。

事務

仕事への想い

染矢　京子

恵の聖母の家で仕事をさせていただくようになって十九年が経過しました。事務所では、職員の勤務変更届け・有給休暇届処理、給食の請求事務等を主にやっています。

窓口には、多くの来園者の方々が訪れます。お客さまが常に気持ち良く来園していただくために、明るく、笑顔で接するよう心がけてやっているつもりですが、つい自分の感情や思いが顔に出ているのではないか、と反省することもあります。今後はこころのこもった接遇に努めたいと思っています。

また、十四年半前からは、薬局で薬剤助手の仕事にも携わっています。薬剤師の伊賀先生の下、利用者さまの定時処方（七十名）・臨時処方づくりに関わらせていただき、伊賀先生が処方箋に基づき、監査システムにて調剤→計量→その薬を私の方で分包機（パソコン付）に入れ、患者番号入力→用法・薬品名・薬量・日数を入力することで分包紙に薬が入り、氏名等が印字されて薬が分包され、先生ができあがりを確認されます。この時、先生とお互いに信頼をもって調子を合わせることが最も大切です。この他に、薬品在庫管理と発注業務をしています。

洗濯場

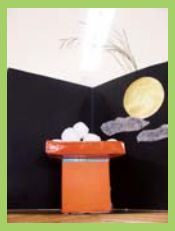
秋の競争

児玉　陽子

もう秋です。栗、柿と、収穫時期で、私の家にも栗の木があります。毎年栗拾いをして、忙しい月なんですが、ここ何年か前から山に猿、いのししが出るようになり、栗拾いで人間と動物の競争です。鹿も出るのです。野菜、お米の稲にも鹿が入って、新芽を食べるので、家の周りは鹿の網をして、野菜畑や田んぼに入らないようにしています。大変です。田舎で土地はあるのに、野菜を作れないのが残念です。子どもが帰っている時に、猿と鹿が畑に出ているのをみて、ここは動物園みたいだねと言っていました。

私は今から三十年ほど前から関節リウマチを発病し、今も治療継続中です。痛くて苦しい時もありますが、薬は切っても切れない友達です。この薬がなければ私生活にも影響しかねません。薬の大切さが身に沁みています。

利用者さまの薬の印字も一歩間違えると大変なことになります。薬にはすごく神経を使いますし、集中力も不可欠です。間違いは許されない仕事ですから。更に気を引き締め頑張っていきたいと思います。



保護者の皆様から

３年が経って…

恵の聖母に来て３年が経ちます。
それまでの病院で過ごしてきた時と違い、細やかな医療ケアに加えて、スタッフの皆さんが家族のようにあたたかく接してくれて、生活感のある毎日が過ごせるようになりました。

生活の方では療育活動があって、お風呂のない日はゲームをしたり、季節の行事でにぎわったり、いろんな活動的雰囲気の内容のものから静かな本読みまでいろいろと楽しんでいます。
今年もいろいろな出来事が続いています。まずは３月の卒業式。小学校の先生方に来ていただき、同級生の卒業式の様子のお話しをお聴きしたり、出席者全員で「桜の栞（AKB）」を合唱しました。４月からは臼杵支援学級に入学し、週２回の訪問教室が始まりました。授業では、歌や読み聞かせに加えていろいろな作品を作ります。牛乳パックなど身辺なモノを工夫して、色や光、香りや触感などを大切にしたアイデアあふれる授業をしてくれます。先生のアイデアには驚きです。
園の方では行事への参加等がありますが、今年はなんといっても８月30日に行った園外レクです。体調が今一つだったので車椅子ではなくベッドを移動しての参加になりましたが、念願の屋外で活動ができました。テラスに大きなテントを用意して虫の声に耳をすませたり、水の入ったペットボトルを素材にして、握ると中に入ったボールが沈むという面白い工作で楽しむことができました。
これからもいろいろなイベントに参加できたら良いなと思っています。
これからもよろしくお願いします。

川野　真由美

空の下で園内レク

支援学校訪問教室

ふれあい交流会

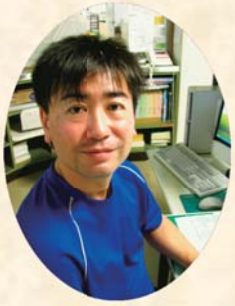
大分県立臼杵支援学校　教諭　小代　多恵子

夏季休業中の８月２日に、あゆみホールにて、本校主催の『ふれあい交流会』を行いました。訪問教育学級の児童・生徒と本校教職員、施設利用者のふれあいと親睦を目的とした夏のビッグイベントです。本校からも20名あまりの職員の協力があり、また施設職員、施設利用者の皆さんの多くの参加により、普段の授業では味わえない活気のある楽しいイベントとなりました。
今年の交流会は、『夏祭り』をテーマに行いました。御輿の入場で幕開け、続いて衣装に身を包んだダンサーがフラダンスを披露すると、会場も一気にお祭りムードになりました。リズムあそび『うみだ　うみだ』は、波をイメージした青い布が、頭上に波のように打ち寄せる様子に目を輝かせる参加者も多くいました。
クライマックスは、本校職員で構成するバンドの演奏会でした。『情熱大陸』は、その迫力に会場中が吸い込まれ、『ホールニューワールド』では、素晴らしい歌声とメロディにゆったりと耳を傾けました。『風になりたい』は、マラカスやタンバリン等の鳴り物を手に、参加者も一緒にリズムを刻み、終りの歌『にじ』の大合唱で、会場が一つになりました。
訪問教育学級の児童・生徒も「はじめの言葉」「おわりの言葉」の係を担当しました。
交流会に向けて、御輿のちょうちん飾りを作成したり、係の準備や練習を重ねたりしながら、少しずつ準備を進め、当日を迎えることができました。
たくさんの人の支えで、このように大きなイベントが成功に終わったことを、心より感謝しています。これからも、学習活動に対するご理解とご協力をお願いいたします。

写真：フラダンス（左上）/おみこし（左下）/うみだ　うみだ(右)

ぴかぴか ぴかぴか ぴかぴか

新年度に入られたスタッフをご紹介します。①お名前②職種③お住まい④趣味⑤一言



①長倉智和先生②小児科医③大分市④ソフトボールです。大学の部活でもしていました。投手です!!（キャッチャーではありません…）決め球はチェンジアップと外角のスライダー！また家族とドライブによく行きます。久住や阿蘇はプレイスポットです。⑤10年ぶりにここにまたお世話になることになりました。いつも感謝の気持ちを忘れず、また福祉という勉強をさせていただきながら、もう一度、自分にとっても医療の原点とは何かということを時間をかけて考えて行きたいと思います。よろしくお願いします。

①西元輝美さん②洗濯場③野津町④休みの日は子どもと一緒に過ごしています。⑤一日も早くなれるように頑張ります。

①長野由香さん②看護師③野津町④食べ歩きですね。大分市や別府市に行ったりします。おすすめは大在の洒落柿（しゃれがき）さんですね。美味しい焼き肉のお店です。⑤あゆみ病棟に９月１日から就いています。一般病棟を１４年、訪問診療のクリニックで２年勤めて施設は初めてです。皆さんの足でまといにならないように頑張りたいと思いますのでよろしくお願いします。

①小手川孝行さん②看護師③三重町④多趣味です。身体を動かすことも好きですが、銀細工もやっています。指輪やネックレス、日曜大工とかもしています。９月１日付でのぞみの丘に配属になりました。こういう小児看護は初めてで、何もわからない状態ですが、徐々に慣れていければと思っています。いろいろと皆さんにご迷惑をおかけすると思いますが、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願いします。

①飯倉啓介さん②看護師③大分市④ドライブです。買い物とかで天神など、福岡とかへ行ったりします。中学は剣道をしていて初段です。県大会に出た事があります。⑤６月21日から勤務に就いています。施設ははじめてなのでお手やわらかにお願いします。

施設見学

九月二十一日韓国の姉妹施設「聖母の村」の皆さま（福祉職の方三名と衣類関係の方一名）が当施設を見学されました。見学の皆さまは設備や利用者の居室状況について、他にボランティアについて熱心に質問されていました。見学にあわせて韓国語で「いらっしゃい」のメッセージが廊下に掲示されていたり、職員がチマチョゴリで出迎える等、楽しいひと時もあったようです。入所者の方も遠い国からのお客さまにとても喜ばれて、昔当園で勤めていた職員が引率で来られて、懐かしく感じられた方もおられたようです。

人事

▼退職
理学療法士　安東　京子様
（6月30日付）
ありがとうございました。
今後のご活躍をお祈りしております。

感謝

本の寄贈

Ｇｏ・Ｇｏ・エルビス

九月五日、恵のホームページで園の活動を見て下さった東京の杉本純子様から「犬に触れ合うことのできない方も写真のエルビスの姿や表情から少しでも元気や温かい気持ちへのお手伝いになれば」と、かわいらしい愛犬の写真集五冊を寄贈していただきました。皆でかわいらしさに触れたいと思います。

ありがとうございました。

社会福祉法人 聖母の騎士会　恵の聖母の家
〒875-0211　大分県臼杵市野津町都原3601-2
TEL 0974-32-7770　FAX 0974-32-7771
email info@meguminoseibo.jp
http://www.meguminoseibo.jp/

行事予定

※青色…施設外療育　©…ケースカンファレンス　㊟…個別面談　㊖…権利擁護委員会　㊙…全体朝礼　㊘…労働安全衛生委員会　㊗…リスクマネジメント部会　㊇…入浴日

10月			11月			12月			2012年1月		
1	土		1	火	㊙㊖㊘	1	木	㊇	1	日	お正月行事
2	日		2	水	㊇	2	金		2	月	書き初め
3	月	㊇	3	木		3	土		3	火	㊇
4	火	㊙㊖㊘	4	金	㊇	4	日		4	水	
5	水	㊇	5	土	動物ふれあい	5	月	㊇	5	木	
6	木		6	日		6	火	㊙㊖㊘	6	金	㊇
7	金	㊇	7	月	㊇	7	水	㊇	7	土	
8	土		8	火	©	8	木		8	日	
9	日		9	水	㊇	9	金	㊇	9	月	
10	月		10	木	研究発表会	10	土	クリスマスの集い	10	火	㊇
11	火	© ㊇	11	金	㊇	11	日		11	水	
12	水		12	土		12	月	㊇	12	木	行事委員会
13	木		13	日		13	火	©	13	金	㊇
14	金	㊇	14	月	㊇	14	水	㊇	14	土	
15	土	ふれあい運動会	15	火	©	15	木	㊗	15	日	誕生会
16	日		16	水	㊇	16	金	㊇	16	月	㊇
17	月	㊇	17	木	㊗	17	土	もちつき	17	火	©
18	火	©	18	金	㊇	18	日	誕生会	18	水	㊇
19	水	㊇	19	土		19	月	㊇	19	木	㊗
20	木	㊗	20	日	誕生会	20	火	©	20	金	㊇
21	金	㊇	21	月	㊇	21	水		21	土	
22	土		22	火	© ㊟	22	木	㊇	22	日	
23	日	誕生会	23	水		23	金		23	月	㊇
24	月	㊇	24	木	臼杵マルショク	24	土	サンタプレゼント	24	火	©
25	火	© ㊟	25	金	㊇	25	日	クリスマスミサ	25	水	㊇
26	水	㊇	26	土	㊖	26	月	㊇	26	木	
27	木	臼杵マルショク	27	日		27	火	©	27	金	㊇
28	金	㊇	28	月	㊇	28	水	㊇	28	土	
29	土		29	火		29	木		29	日	
30	日		30	水	㊖	30	金	㊇	30	月	㊇
31	月	㊇				31	土	大晦日	31	火	© ㊟

※予定変更の場合があります。

編集後記

「この上半期、もっといろいろなできごとがあったのに」と思いますが、他のことはホームページ等でお知らせしていきたいと思っています。ホームページもぜひご覧下さい。広報を通じて、様々な活動をされている方、そして他の施設の方ともつながりができて、ありがたいことと感じています。次号は来年になります。2011年は予期せぬことがいろいろあった年でした。来年、皆さまにとりまして良き年となりますようにお祈りしております。（S・M）

※写真掲載は保護者・成年後見人から許可を頂いています。